

肝要なのは想像力

校 長 武井 正明

大人でさえ、間違いを犯す。いわんや子どもにおいてをや、である。

子どもの間違いに寛容でありたい。骨身に染みる失敗を重ねて、判断力や分別を身に着ける。そして成長していくのが人間だ。特に中学時代には成長に必要な失敗が、ある。

しかし、大人だろうが子どもだろうが、絶対にしてはいけない間違いがある。

それは、命にかかわる間違いだ。

先日、県内の学校で2件、命にかかわる重大事案が発生した。どちらも、最悪の「致命的な」事態に至らなかったことが、不幸中の幸いであった。

私は校長として、これらを自分事として考える。

自分は生徒や保護者、教職員に対して、想像力についての十分な啓発を行っているか？

こんなことを言えば、どうなるか。こんなラインを発すれば、どうなるか。こんな行動をとれば、どう影響するか。巷にあまりにも短絡的、発作的で考えなしの事件や事故が多すぎやしないか。私はとりわけラインいじめなど、個々がしっかり常識さえ弁えて利用すれば、その大半は防げるものだと考えている。社会は大人を映す鏡。我々大人も、想像力と常識をもって生きる姿を、子どもたちに自ら見せていくべきである。

理科授業に実験は不可欠だ。出てきた疑問を、仮説を立てて推理し、実際に検証していくという理科の醍醐味は、そこにある。「危険だから実験をしない」のは論外。そして当然、安全な薬品管理に努めるのは我々教師の責務だ。

しかし、その薬品を口に入れたらどうなるか、火傷で喉が潰れてしまったら、一生取り返しがつかない。おふざけでも絶対にやってはいけないという想像力や常識の育成は、周囲の大人が全員で日常生活の段階から、常に心掛け注意喚起していくべきことだと思う。

給食の中に異物が入っている可能性が少しでもあったら…もしそれで喉を切ってしまったら、一生かけても償うことはできない。「多分大丈夫だろう」これが最も危険だ。我々教職員が自分も含めて、常に自戒しなければいけない。

安心、安全な学校生活は、細心の注意と、日々の地道な啓発、指導の積み重ねの上にしか築けないことを、あらためて肝に銘じておきたい。